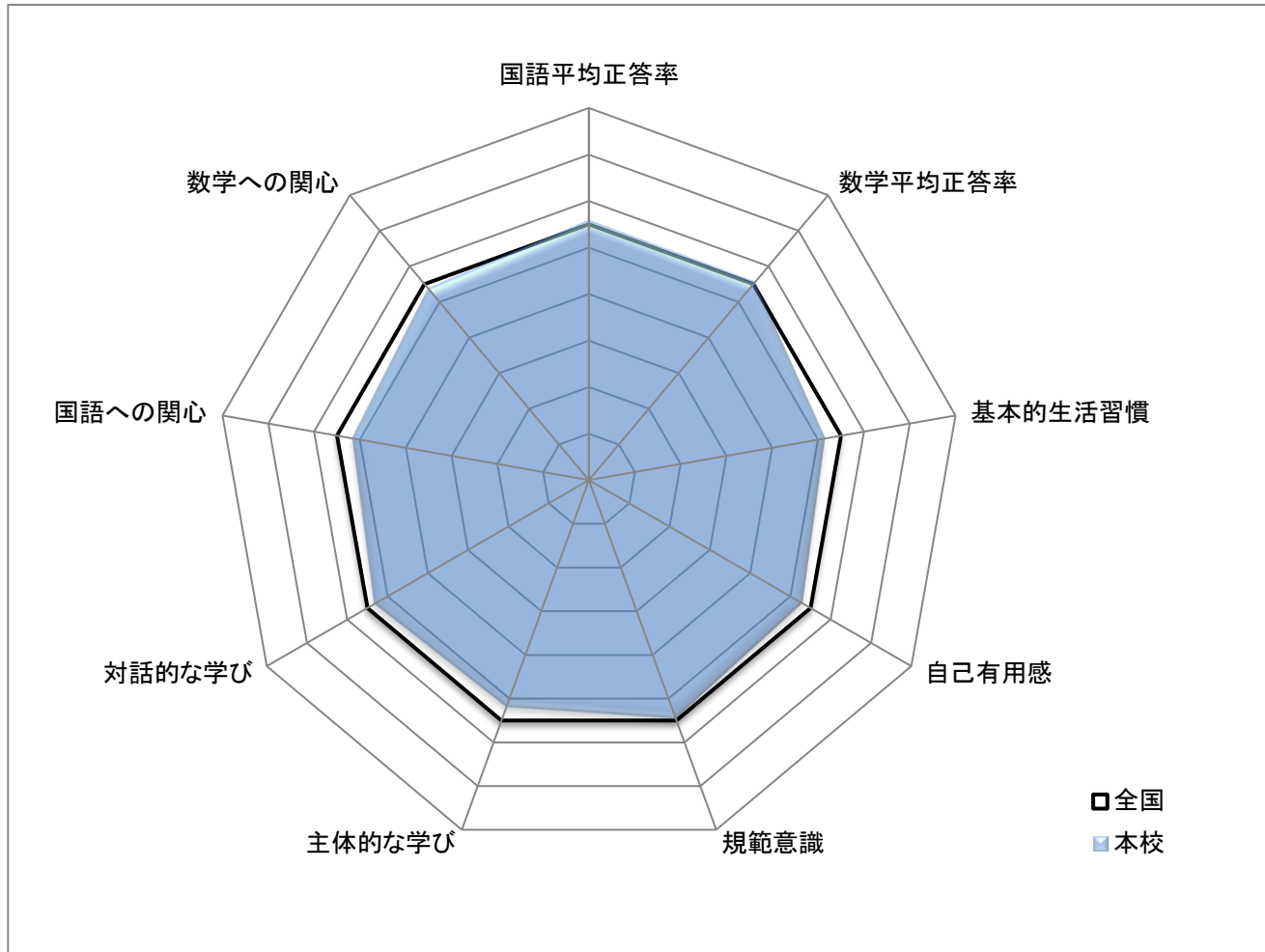


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

今年度は数学・英語とともに全国平均を上回り、東京都平均に迫る結果となった。昨年度と比較し、国語や数学への関心や主体的な学びに対する意識の向上が見られる。特に友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる旨の肯定的回答が昨年度よりも多くあり、日頃の学校生活や授業に対する姿勢が正答率向上に繋がっている。学力調査本番では、生徒は終了の時間まで諦めず、粘り強く取り組んでいた。今後もこの姿勢は大切にさせていく。

《授業改善のポイント》

各教科の授業では引き続き基礎基本の定着に向けた小テストの実施や家庭学習への取り組みの強化が必要がある。また、授業内での課題設定に関しては生徒自身が考え、解決できるような工夫を目指したい。要点を押さえつつ、主体的で対話的な学び、自己有用感の改善に向けた授業改善への取り組みを進めていきたい。江戸川区の学力向上の施策と関連させて、「よむYOMUワークシート」の積極的な活用により読解力の向上を図り、「数学単元別検定」では、3級合格に向けて補充教室を実施し、生徒全体の基礎計算力の定着を図っていくことで、生徒の更なる学力向上を目指していく。

《チャートの特徴》

数学の平均正答率及び規範意識を除き、全ての項目で全国平均を下回っている。しかし、顕著に課題となる項目はなく、各項目いずれも全国平均正答率、肯定的回答に接近している状況にある。その中でも「基本的な生活習慣」の肯定的回答において全国との差が比較的大きく見える。歯と口の健康づくりの一環で行っている、給食後の歯磨きの促進のように、基本的な生活習慣を付けさせる取り組みを行っていく。「対話的な学び」「主体的な学び」については昨年度と比べて大幅な改善傾向にある。今後も学校全体でこの状況を把握し、各教科の授業でICT機器の効果的かつ積極的な活用をするなど工夫を重ね、更なる向上への取り組みを進めていく必要がある。

《家庭・地域への働きかけ》

本年度から家庭学習の習慣化に向けて、1・2学年では毎日1日ノート1ページ以上の学習に取り組む「家庭学習ノート」の取り組みを開始した。全国学力学習状況調査の正答率の更なる向上と生徒の希望する進路実現に向けた取り組みを家庭と連携して遂行していく。